

令和7年度 境町小学校 教育課程特例校の実施状況について

1 特別の教育課程の概要

平成22年4月より実施している特別の教育課程編成による取組の課題を明らかにしながら、英語に慣れ親しみ、英語を用いてコミュニケーションを図ることができる児童を育成する。

第1、2学年では週1時間（1年：年間34時間・2年：年間35時間）を「英語活動」として実施する。「聞く」「話す」活動を中心に、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養うことを目的とし、裁量の時間に実施している。

第3～6学年は特別の教育課程として、総合的な学習の時間を削減し、週1時間（年間35時間）「英語活動」を実施する。

第3、4学年においては、外国語活動の学習内容に加え、幅広い表現に触れ、初歩的な「読む」「書く」活動を含め、自分のことについて表現できることを目的とする。

第5、6学年においては外国語科の学習内容を踏まえ、英語表現を活用できるようにしていく。「読む」「書く」活動を含め、自分のことや身の回りの事柄について伝え合ったり、発信したりする活動を通して場面に応じて英語を使えるようにすることを目的とする。

2 地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本町では、平成16年度より町内の5校全ての小学校で、1年生から6年生までの全学年で小学校の英会話活動の研究実践を行った。その後、学習内容を検討し英語活動としての実践を行ってきた。

新学習指導要領の全面実施前から、低学年及び中学年の英語活動に対して、児童生徒、保護者、教員の意識調査を行った。児童生徒、保護者、教員のいずれもこれまでの取組を推進してほしいという結果が得られた。児童、保護者、教員の願いを実現するために、平成22年の申請開始時より教育課程の特例措置の申請を行い継続してきた。

本町では、子育て支援の一環とし、平成30年度から、「スーパーグローバルスクール(SGS)事業」として英語教育に重点を置き「英語を話せる子どもたちを育成する」ことを目標としている。

小学校1年生から日常的に英語に触れながら、小中学校9年間を通して、実用的な英語力を身に付け、グローバル社会で活躍できる人材の育成を目指している。フィリピンのマリキナ市・ハワイ州ホノルル市と姉妹都市の提携をするなど、国際交流事業も盛んに行われている。

複数のALTが常駐し、感性豊かな早期の段階（低学年）から、生きた英語に慣れ親しむことにより、主体的に英語に関わり、コミュニケーションを図ろうとする態度の醸成を図る。町独自のテキストを活用し、学年に応じた言語活動の充実を図ることで、英語を用いて自分の考えや気持ちを表現する力を段階的に育成していく。

英語を用いたコミュニケーション能力の向上とグローバル社会に対応できる人材の育成のため、特別の教育課程を編成して教育を実施する必要がある。